

皆さんは、「釜石の奇跡」を知っていますか？

平成23年3月11日午後2時46分に東日本大震災が発生すると、釜石東中学校の生徒たちは、率先避難者となって避難所へ走りました。避難所の所在地は、避難訓練で全生徒が知っていました。

近くの鵜住居小学校は、児童を3階に避難させようとしたが、「津波が来るぞ」と叫びながら走っていく中学生らを見て、先生方も小学生も一斉に高台へ走り出しました。

小中学生は、目指していた避難所に到着しましたが、そこも危険だと考えた中学生らが、もっと高台への移動を提案し、さらに遠く離れた高台へ、小学生の手を引きながら避難しました。

この直後、津波が到達し、最初の避難所は水没しましたが、さらに遠く高く逃げていた小中学生は、全員が命拾いをしました。防災意識の高い中学生の冷静な状況判断が、多くの命を間一髪で救いました。

この行動は、群馬大学の片田先生の指導の下で8年間、万一の時のために欠かさなかった避難訓練に、小学生の頃から真面目に取り組んでいたからこそできたものだと言われています。

このことから皆さんに学んでもらいたいことは、次の3つです。

(※時間の都合で、ここまでの内容は話しませんでした。)

今日、皆さんにお話ししたいことは、次の3つです。

- 1 試合では頑張るので、練習は適当でも大丈夫、そう思っている人はいますか？練習でできないことが、本番でできるはずがない。避難訓練でできないことは、実際の災害時にできるわけがない。
- 2 火災報知器の非常ベルが鳴っても、すぐに人は逃げない。また誤作動かな？今日は訓練だっけ？前は大丈夫だった、自分は大丈夫、自分だけ逃げるのはカッコ悪い、といった理由で逃げない。そういう雰囲気を断ち切り、あなた自身が勇気を持って逃げ始めることが、皆の命を救うことになるのです。
- 3 釜石東中学校の生徒たちは、自分の命を自分で守るための行動を取りながら、小さな小学生の手を離さず逃げました。皆さん高校生は、人の一生の中では既に強者です。弱者ではない。地域全体を揺るがすような大きな災害に見舞われた時には、自分の命を守った後には、小さな子供やお年寄りに手を差し伸べて欲しい。

以上3つ、西高生ならできる！ 終わります。